

研究計画「再生不良性貧血、骨髄異形成症候群における造血抑制機序の解明」について

研究責任者：横浜市立大学医学部小児科

辻本 信一

私たちは、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群の病態をより正確に理解し、発症予防法やより良い治療法を開発することを目指して、下記の患者様の試料・情報を用いた研究を行っています。この研究へのご質問がある方や、研究に試料・情報が使われることを望まない方は、下記のお問合せ先にお申し出ください。その場合でも、不利益が生じることはありませんのでご安心ください。

【研究の対象となる方】

本研究は、下記の方を対象としております。

2000年4月～2024年3月の間に、当院において、再生不良性貧血もしくは骨髄異形成症候群と診断され、当時診療上必要な検査で取得された保存試料の研究への使用について同意いただいた方

【研究に用いる試料・情報の種類】

試料：血液、骨髄液

情報：年齢、性別、診断日、転記、診断時の検査所見、治療に関する情報（治療内容、治療開始日、治療効果）、先行する造血異常の情報（疾患名、診断日等）、再発に関する情報など

【研究期間】

承認日～ 2024年3月31日

【研究実施体制】

本研究全体の代表機関 東京大学医科学研究所 細胞療法分野 北村 俊雄

本研究の分担機関

国立成育医療研究センター 小児がんセンター 移植・細胞治療科 加藤 元博

東京大学医学部附属病院 小児科 加藤 元博

京都大学医学部附属病院 小児科 滝田 順子

横浜市立大学附属病院 小児科 辻本 信一

NTT東日本関東病院 血液内科 臼杵 憲祐

京都大学大学院医学研究科 腫瘍生物学 小川誠司

【研究の目的と方法】

再生不良性貧血では、体を防御するはずの免疫細胞が何らかの理由により自らの造血細胞を攻撃し、血球減少を引き起こすと考えられています。また、近年の研究により、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群では特定の遺伝子変異が繰り返し見出されることが明らかになりました。私たちはマウスモデルを用いた最近の研究で、ある特定の免疫細胞が他の細胞を異常に活性化させ、正常造血を抑制することを突き止めました。同様の現象が患者さんでも起きているとすれば、異常な免疫反応を標的とする新たな治療法や、遺伝子変異に準じた治療法の開発につながる可能性があります。本研究では、対象の患者さんの血液、骨髄液を用いて免疫細胞やサイトカインと呼ばれる免疫物質を解析し、再生不良性貧血、骨髄異形成症候群で造血が抑制されるメカニズムの解明を目指します。また、細胞から回収したDNAの変異解析を行い、遺伝子変異が再生不良性貧血、骨髄異形成症候群を引き起こす理由を探索します。

【個人情報の保護】

個人情報を保護するため、試料や情報には研究用IDのみをつけて管理し、研究に利用します。個人を識別する情報と研究用IDを記した対応表は、各機関の個人情報保護管理者が厳重に管理します。試料・情報は、共同研究機関から東京大学医科学研究所、京都大学大学院に送付されますが、その際も患者さんの個人情報は提供されません。

【研究参加の辞退について】

試料・情報が本研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記のお問い合わせ先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

【お問い合わせ先】

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

< お問い合わせ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先 >

研究責任者： 横浜市立大学医学部小児科 助教 辻本 信一

電話番号： 045 - 787 - 2800